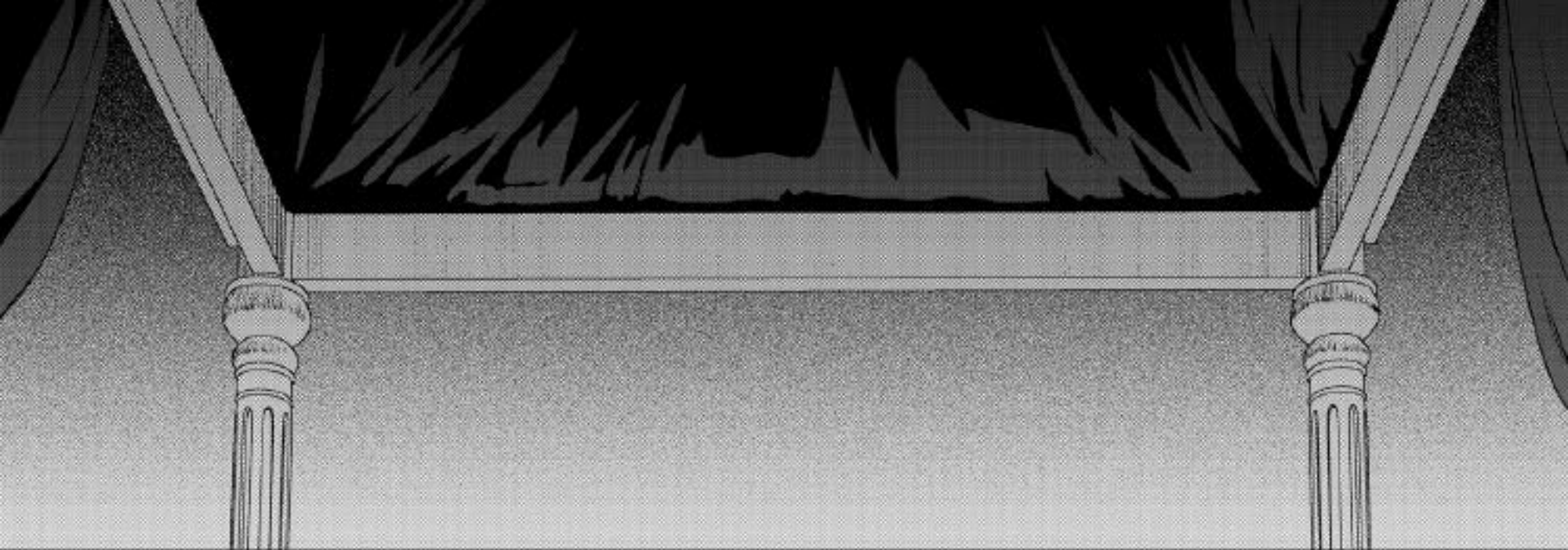




はち
す...



はち...
はち...

水色の天蓋...
青の宮殿の
どこか？

夜明けまで
まだ時間がある

寝ていろ
ヴァート



はっ

うちの警備兵に
取り押さえられた時
傷を負ったと
報告を受けている

…!



今夜は
ここで休め

明日の朝
緑の医師と
おまえの侍従が
王宮にあらがることに
なっている

医師…?



あの兵は
どうなりましたか?!

王に傷を負わせた
罪は重い

命を救えるなどと
期待しないほうが
いい



お願いです!
わたしは怪我なんて
してません!

あの兵を助けて
下さるのなら

引き換えに
あなたの望むとおりに
します!



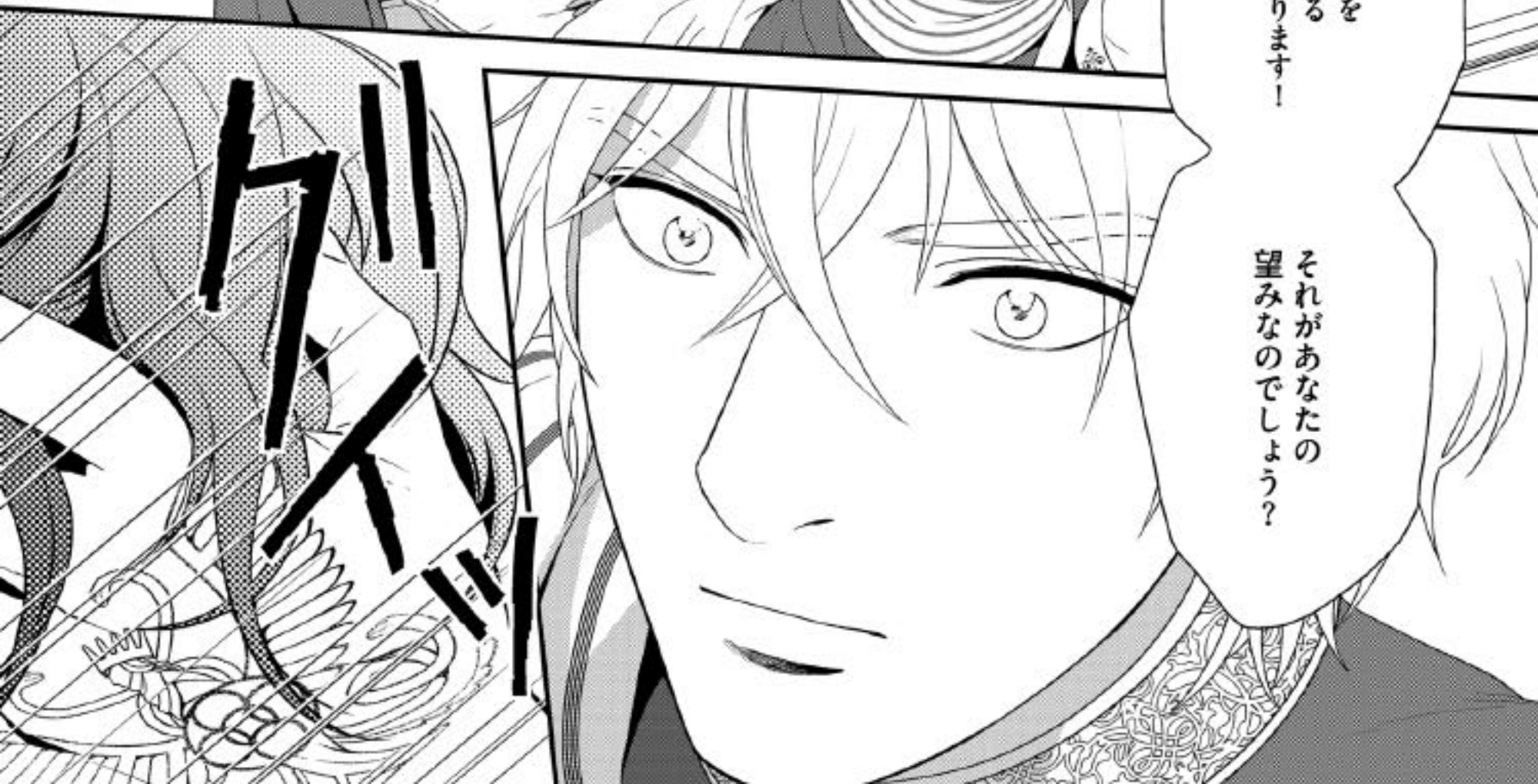
私の
望みどおりに？

あ…

青の姫として
宮殿にとどまって



グリニッジを
おびき寄せる
おとりになります！



それがあなたの
望みなのでしょう？



違うの
ですか?

な、なんでもします
あなたが望むことなら
なんでも...

やめろ
取引にならない

それが
私の望みだと
思うのか……?

警備兵を見逃す代わりに
おまえを抱いても
私の利になることは
ひとつもない

自分の欲求を
満たすために
話をすり替えるな

え?



セージ



アジュール

あらすじ

『声』の力を使い「王の禁忌」があると誓いこませた緑の王・セージは、冷酷な青の王・アジュールに恋心を抱いていた。そんな中、セージは紫の王・バービュアが以前消した記憶を思い出していたことを知る。苦しむ彼女の姿にセージは再び記憶を消すが、それを知ったアジュールに責められてしまう。さらにグリニッジが牢から逃走したと聞いたセージは…？

気づいて
いないのか

おまえのそれは
身体目当てだ

—から、だ…

目…

かあああ

おまえから
言い出したのだ

グリニッジに
殺されたくなければ
青の宮殿から出るな

面倒を起こさず
大人しくしている



青の宮殿で
暮らすことになって
数日が過ぎた

ここ数年で最大の
反逆罪を犯した
グリニッジが逃亡し

いまだ足跡すら
つかめていない

事情を知らない
侍従たちまで
不安を覚えるほど

王宮内は
緊張した空気が
立ち込めていた

もう王宮は
慣れましたか？
ガゾン





わたしは青の宮殿で
しばらく暮らして
いたから
ここの案内なら
任せてください



いえ…まだ
しょっちゅう
迷ってしまって…

王宮の通路は
複雑ですね

苦勞をかけて
すみません



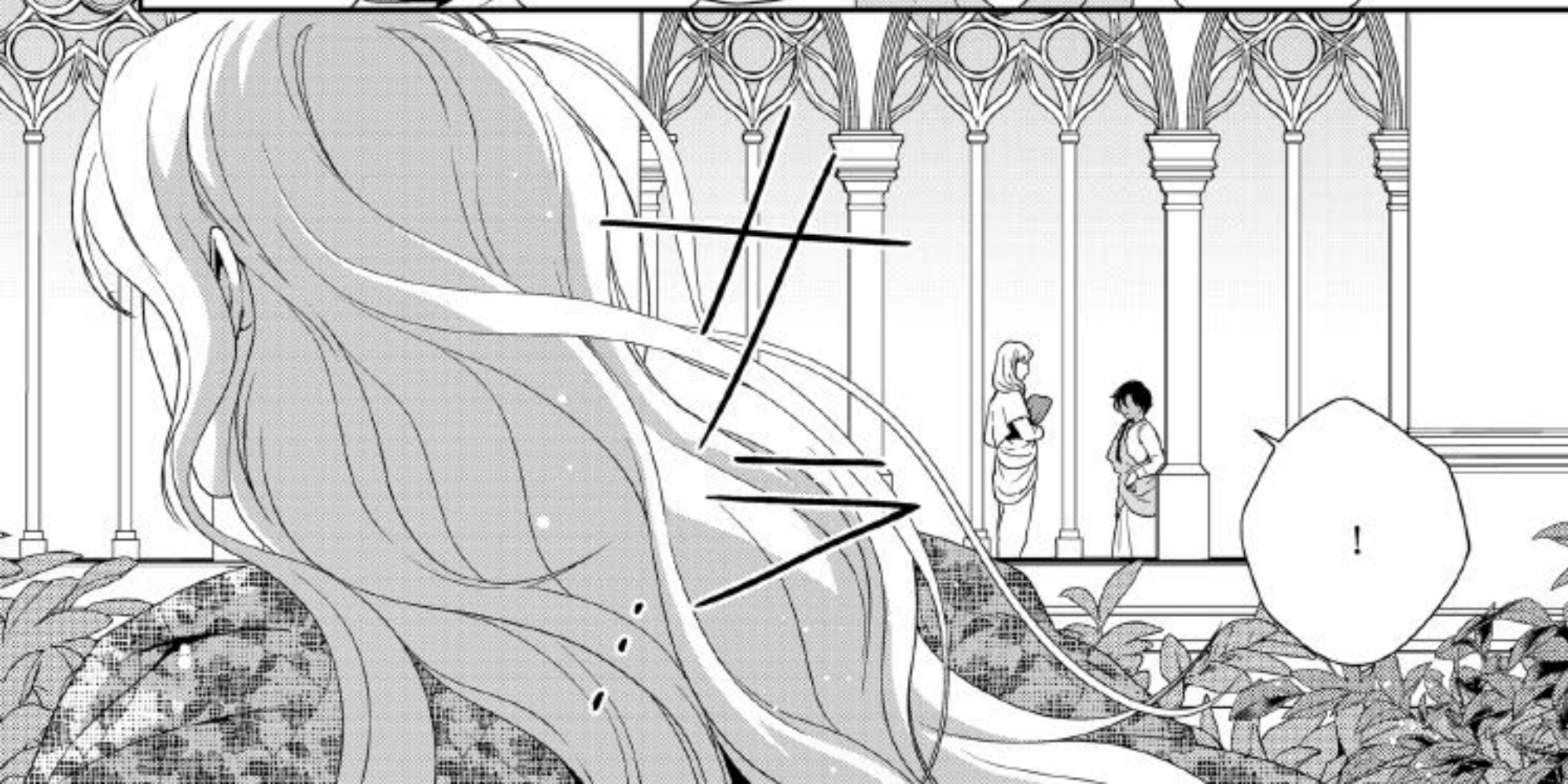
この中庭を歩いて
侍女の詰め所を
通り抜ければ

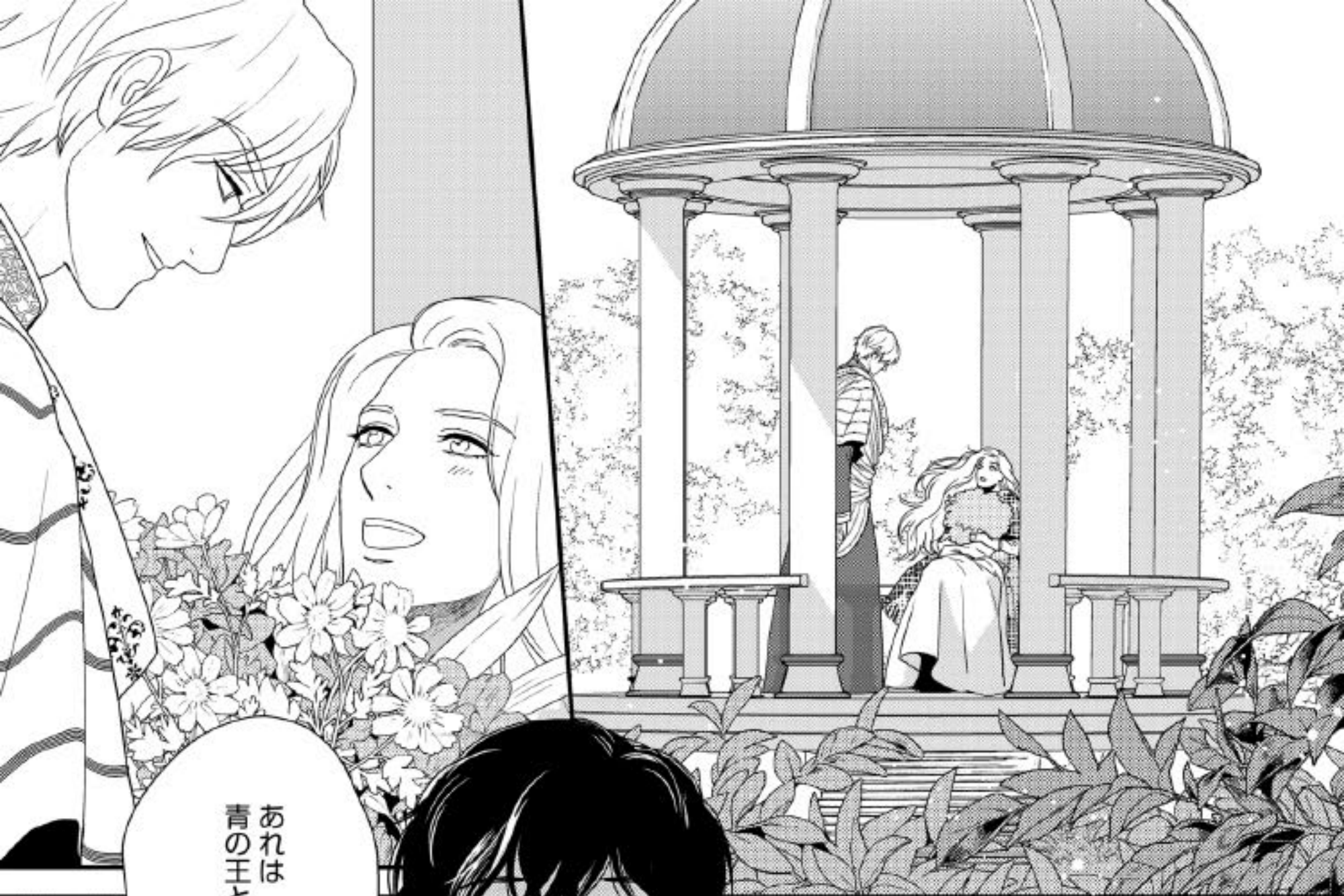
わたしに
宛てがわれた
部屋まですぐです

詰め所の奥にある
ハリームの裏手の庭は
赤の宮殿に続いてますし

調理場までの
近道も教え
られますよ！

なぜ
そんなことまで
ご存じなんですか…？





あれは
青の王とルリ様…



シャー？
どうしたんですか



青の姫に、
ですか…？



ここで少し
待っててください

知っている女性が
いらしたので
挨拶をします